

福音の園だより

平成十八年度「高齢者雇用優良事業所 協会会長賞」受賞
TBSラジオ『メイノいきいきモーニング』取材紹介施設

グループホーム・デイサービス介護保険事業者指定
350-0016 埼玉県川越市木野目一八七八番地一
特定非営利活動法人 **福音の園・埼玉 事務局**
☎049-230-1111(FAX230-1112)

ご家族の声

半世紀も一緒に居て、

毎週面会の度に、家内が私を見てコロコロと笑ってくれる姿を見て、私自身、年々心も身体も不自由になって来ている私に、元気を逆にもらっております。これも福音の園スタッフ皆様の心の通い合うやさしい心配りの介護のお蔭と心から感謝申し上げます。

最近思うことは、家内が記憶や人間の言葉を失ってしまっていたと思ひ込んでいた愚かな私に神さまは、

「そうではないよ、彼女はしっかりと記憶を心の奥底の引き出しにしまって、私に時々見せてくれるのだよ」と、狭い知恵の中でしか考えなかった私に教えてくれるイエス様の偉大さに気付かされたことです。半世紀も一緒に居た家内に恥かしい限りです。

これからもどうぞ宜しくお願い申し上げます。(M・O)



祝 二〇〇八年クリスマス

『きょうたんの国で、あなたがたのために、救い主が生まれになった。この方を主キリストです。』

新約聖書 ルカの福音書 二章十一節

心に触れる優しい支援の実践

鈴虫の羽音に学ぶ―高齢者の特性

グループホーム福音の園・川越 ホーム長 杉澤 卓巳
ろ 老人性難聴【ろうじんせいなんちよう】老化が原因となつて生ずる難聴。一般に両側の感音性難聴の形をとる。高音域ほど障碍されやすい。(実用介護事典)

これまで「高齢者の方は耳が遠く、高音域ほど聞こえにくい」ことは職業柄熟知しており、毎日のケア実践の上で充分配慮しながら対応してきた。この夏、改めて「百聞は一件に如かず」、この点を体験した。

去る八月中旬、協力下さっているボランティアの方がご利用者さんと「鈴虫」飼育箱を届けて下さった。連日の猛暑・熱帯夜の中、鈴虫の涼しげな音色が各階食堂ホール内に響き渡った。夜勤者がこれでは眠れなくなるからと脱衣室に「隔離」したほどだった。ある日、九八才ご利用者お二人の近くに飼育箱を置き、「鈴虫ですよ、いい音色でしょ。」と期待して感想を求めた。

意外や「鈴虫なんか居やしないヨ:。」「私にも聞こえまへん:。」お二人の言葉に耳を疑いながらも数秒して納得できた。その振動数・周波数があまりにも高かったため、お二人の内耳には届かなかったことを。

「きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになった。この方こそ主キリストです。」と御使いに告げられた羊飼いたちは互いに話し合った。「さあ、ベツレヘムに行つて、主が私たちに知らせて

下さったこの出来事を見て来よう。」と彼らに行動を起こさせたのは、羊飼いたちの内耳にはなく「内心」に届いた御使いの声を聴いたからだだったに相違ない。

福音(聖書)に基づいたケアの実践を目指すと言ふ時、お一人ひとりの心(感性)にまで届くケアプランを目指し、明るい希望への支援を心掛けていきたい。 祈り。

スタッフの声

頭によぎった「聖書の時間」

次男から「妻が早産になりそうで:。」という事から急遽、入院ではなく次男一家三人を我家に迎えて出産日まで安静にして過ごすこととなりました。

今、息子は困っている。赤ちゃんが産まれる迄、生活と子守を精一杯応援してやろうと思ひ、仕事を休むことにしました。お嫁さんに代わつて公園の散歩などが日課で、一才五ヶ月の孫は懐いてくれるので嬉しくて毎日頑張る。そうしているうちに腰、腕背中あちこち痛くなる。それでも一人台所に立つと心が落ち着く。何故だろう、日が経つ内に気が付いた。福音の園での「聖書の時間」が頭をよぎる様になったのです。牧師さんの笑顔、ホーム長さんの静かに語りかけながら祈られるお祈り。この時間は私の気付かない内に癒されていたのでした。宗教にはほど遠い私でしたが、いつの間にか心の中に住んでおられたんですね。今回の出来事を機会に、新しい一面を持つていることに気付き、次男一家と優しく過ごせた日々感謝、感謝です。

息子夫婦は、三三五〇グラムの赤ちゃんと一緒に帰って行きました。わずか三ヶ月の間でしたが、成長させていただきました。(非常勤介護職 弓田テツ子)

来訪歓迎 埼玉県GH協議会・西部ブロック研修会様
御礼 渋柿 神田 智様(川越市小中居)